

本特集の目的は核兵器が国際政治に果たす役割を改めて問うことにある。その背景には、現在、核兵器をめぐる動きが幾つか起こっていることがある。一方では、核兵器禁止条約の成立や「核ゼロ」の提言に見られるように「核なき世界」を目指す動きが広がりを見せている。他方では、北朝鮮に見られるような核拡散の動きや、その結果生じている拡大抑止に対する不信や核不拡散体制の揺らぎがある。さらに軍事的には核兵器を使えない兵器から使える兵器にしようという動きもある。冷戦後、ソ連の核の傘にほころびが生じた。アメリカは冷戦後も同盟国に核の傘を提供しているが、「アメリカ第一主義」が進めば核の傘への信頼が低下し国際関係は流動化する恐れがある。北東アジアは、ロシア、中国、北朝鮮が核兵器を保有し、台湾、韓国、日本も過去に核兵器開発を模索した時期があり、世界に類を見ない潜在的な核保有国集中地域だ。今後、この地域の安定を守るためには、核兵器が国際関係にもたらす作用を正しく理解する必要がある。現在、世界が直面する問題に答えを提示する論文が多く集まることを期待している。

核兵器をめぐる研究はいくつかの分野にまたがるので、幅広い視点から研究論文を募りたい。核の問題に関する現状分析や、政策研究でも良いし、あるいは、核を事例として同盟行動や規範に関する国際政治理論の検証を行うような研究も考えられるだろう。アプローチも理論研究から事例を用いて理論を検証する実証研究や歴史的な研究など多様なものが考えられる。分野としては、例えば、次のようなものが考えられる。①同盟に関する研究；②核兵器の使用・抑止に関する研究；③核不拡散・核廃絶・軍備管理に関する研究；④核兵器不使用の規範に関する研究。

全体としては、例えば、以下のような問いに示唆が得られることが期待される。

- 1) 核戦争を防ぐためには、核兵器使用の閾値(threshold)を高くしておくことが重要だが、現状は、軍事、制度、規範の面からそうなっているだろうか？
- 2) 核兵器が同盟において果たす役割は何か？核兵器の拡散によって同盟に変化は生じるか？
- 3) 第2撃能力を保有しない核兵器保有国の出現によって国家間関係は不安定化するのか？あるいは安定化するのか？核兵器大国と限定的な核兵器保有国の関係の場合、あるいは、インドとパキスタンのように双方が限定的な核兵器保有国同士の場合はどうか。
- 4) 拡大抑止(抑止)の再検討 — 米ソ冷戦時代の2極構造の下の拡大抑止と現在のような局地紛争・地域紛争が主流の現在では拡大抑止に違いがあるか？
- 5) 核兵器不拡散体制を維持していくために必要な要因は何か？
- 6) 日本の核兵器に関する政策はどのようなものか？核政策に影響を及ぼす要素は何か？

論文の応募をご希望の会員は、論文の仮タイトルと要旨を600~800字程度にまとめ、自宅・勤務先・所属先の住所・電話・FAX・メールアドレスを明記して、2019年10月31日(期限厳守)までに、下記の編集責任者の連絡先までメールでお送りください。検討の上、執筆をお願いする方には、2019年11月30日までに編集責任者から連絡いたします。

論文原稿の最終提出締め切りは2020年5月31日を予定しております。

論文原稿の分量は注を含み2万字以内です。査読の上、最終的な掲載の可否を決定いたします。

本号の刊行は2020年11月30日を予定しています。

執筆要領の詳細は学会ホームページでご確認ください。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お問い合わせ・お申し込みは下記までお願いいたします。

《編集責任者》植木(川勝)千可子

《連絡先》〒169-0051 新宿区西早稲田 1-21-1 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

TEL: 03-5286-3956

FAX: 03-5272-4533

E-mail: cueki★waseda.jp (★を@に置き換えてください)